

平成21年 3月26日

「1858飛越地震」報告書案について

分科会主査 伊藤 和明

当分科会が取りまとめた別添報告書案について、本委員会においてよろしくご審議頂きますようお願い致します。以下概要についても、専門調査会及び中央防災会議報告時の説明資料としても利用致しますので、合わせてご審議頂きますようお願い致します。

はじめに

1858年飛越地震の地震像、越中～飛騨北部にかけての家屋の被害、各所で発生した土砂災害、とりわけ立山連峰・大鷲山、小鷲山の大崩壊による河川の閉塞、その後の2回にわたる決壊によって、下流域に大災害をもたらした状況など、災害の概要を記述。

近年、2004年新潟県中越地震や2008年岩手・宮城内陸地震など、顕著な土砂災害をもたらした事例も含め、飛越地震の地震像、災害像、さらには復旧から復興に至る過程から得られる教訓を、将来の地震防災に活かすことの重要性を記述した。

第1章 地震像と活断層

震源地周辺の地形、地質、植生などの自然環境。飛越地震の地震像については、新しい知見として、双子地震であった可能性に触れ、地震を引き起こした跡津川断層について、その地質的概要、トレンチ調査などから得られた活動度の推定、跡津川断層の現在の活動と総合観測の結果、さらには将来の活動予測とともに、地震発生時の被害想定についても記述した。

第2章 災害の概要

飛越地震による災害の状況を、平野部の被害と山地における大規模土砂災害とに分けて詳説。平野部では、常願寺川流域および神通川流域での家屋の倒壊、地盤の液状化災害、人的被害について記述、とりわけ飛騨国での被害が大きかった点を明らかにした。

土砂災害については、神通川流域の各所、とくに飛騨側での土砂崩壊が顕著であったこと、また、庄川、小矢部川、黒部川流域の土砂災害についても触れた。

とりわけ、飛越地震の名を後世にとどめる原因となった「鷲崩れ」の発生と天然ダムの形成、地震の2週間後と2か月後の2回にわたり決壊し、とくに2回目の決壊では、富山平野に大洪水をもたらした災害の状況について、古絵図や古文書などの資料および立山カルデラ内に残る自然の証跡などをもとに詳しく記述した。

また、加賀藩、富山藩、幕府直轄領における情報収集がどのように行われたかについて記すとともに、「地水見聞録」や「越中立山変事録」などの古文書が、この災害をどのように記述し、また、「立山大鷲山抜図」などの古絵図が、災害の状況をどのように描写しているかを紹介して、それらから何が読み取れるかを記した。

第3章 救済から復興へ

大災害後に行われた加賀藩と富山藩による救済と復旧、被災地住民の移転、寸断された飛騨街道の復旧と、途絶した越飛交易が再開されるまでの過程、各地に残る供養碑や大洪水がもたらした大転石の紹介、飛騨国における救済と復旧、復興などについて記述した。

第4章 常願寺川の砂防事業

大災害のあと暴れ川に変身した常願寺川について、砂防事業や河川改修事業が、はじめは富山県により行われ、のちに国による直轄事業として実施されるに至った経緯、富山平野を洪水から守るために、直轄砂防事業が現在までどのように展開されてきたのか、日本の砂防事業発祥の地となった常願寺川上流の防災事業について詳説した。

第5章 まとめと教訓

飛越地震がもたらした現代への教訓を、各執筆者が、それぞれ専門の立場から記述し、将来の地震災害に備えるうえで、「温故知新」の大切さを確認した。

1 分科会の開催状況及び今後の予定

H19. 8. 23	第1回開催（富山）	構成及び執筆分担の検討
H19. 10. 23	第2回開催（富山）	担当原稿の検討
H20. 2. 6	第3回開催（富山）	担当原稿の検討
H20. 5. 8	第4回開催（富山）	担当原稿の検討
H20. 6. 26	第5回開催（富山）	報告書案の検討<最終回>
H20. 6～	原稿執筆	
H21. 3. 11	小委員会で報告書案を審査	
H21. 3. 26	専門調査会で報告案を審査	
	最終原稿確認を経て、校了を予定	
	報告書（200部）完成を予定	

2 分科会委員

※○伊藤 和明	防災情報機構特定非営利活動法人会長
竹内 章	富山大学大学院教授
岡本 正男	社団法人全国治水砂防協会常務理事
井上 公夫	財団法人砂防フロンティア整備推進機構参与・技師長
前田 英雄	富山県郷土史会会長
菊川 茂	立山カルデラ砂防博物館学芸課学芸員
丹保 俊哉	立山カルデラ砂防博物館学芸課学芸員
高野 靖彦	立山カルデラ砂防博物館学芸課学芸員 （現・富山県立富山東高等学校教諭）
*北原 糸子	神奈川大学大学院教授
（○：分科会主査、※：専門委員会座長、*：専門調査会小委員会座長）	

（執筆協力者）

藤井 昭二	富山大学名誉教授、藤井環境地質研究所長
田添 好男	岐阜県歴史資料館歴史資料部長

事務局

<内閣府>

山崎 速人	政策統括官(防災担当)付災害予防担当企画調整官
相澤 竜哉	政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付主査
大石 真裕	政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付

<(財)日本システム開発研究所>

山田美由紀	研究部第二研究ユニット
前田 裕美	研究部第二研究ユニット